

第1章 背景

1 釜房ダム貯水池の概要

- ・ 太郎川, 北川, 前川が流入
- ・ 利水機能(水道・かんがい・工業・発電), 洪水調節機能
- ・ 親水の間

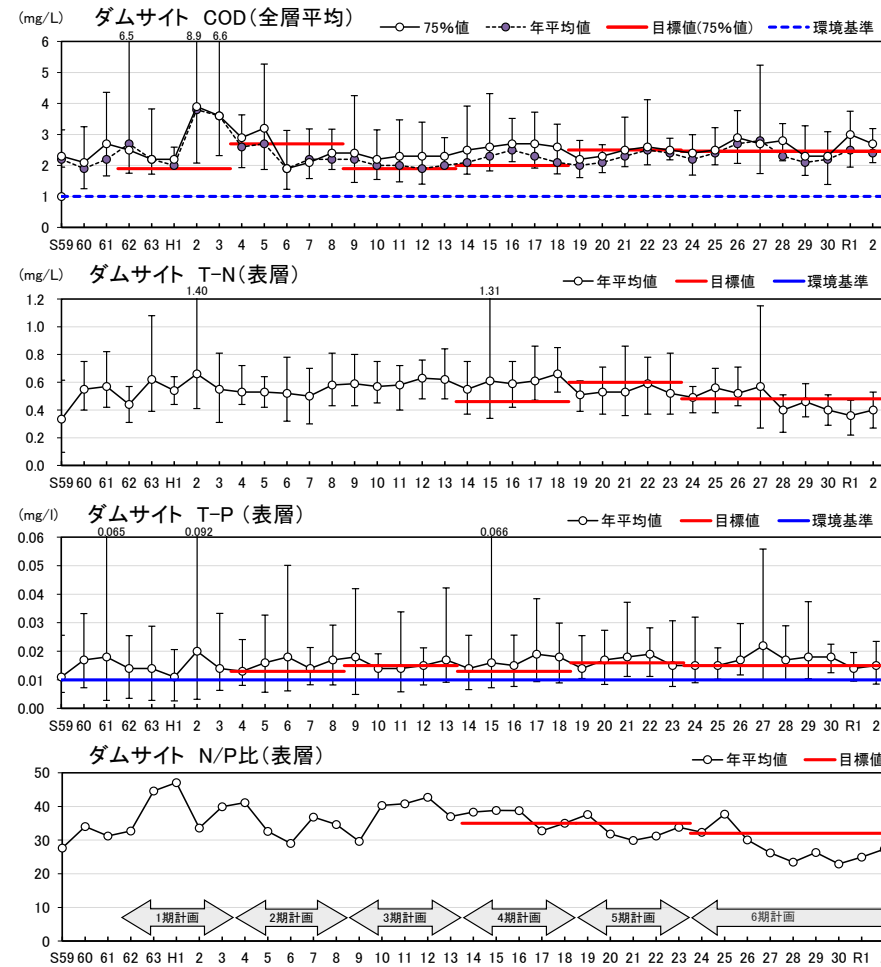
2 湖沼水質保全計画策定の背景

- ・ S50年代にカビ臭等の異臭味障害の発生
- ・ S62年9月湖沼水質保全特別措置法の指定
- ・ 6期35年にわたり湖沼水質保全計画を策定し, 各種対策を実施

第2章 第6期湖沼水質保全計画の結果と課題

1 釜房ダム貯水池内の水質の現状

- ・ COD, T-P は, 目標値の近傍で推移しており, 目標値を達成する年もあるが, 環境基準値は未達成の状況が続いている。
- ・ T-N, N/P比は, 近年目標値を達成した状態で推移している。



2 第6期湖沼水質保全計画の課題

- ・ 施策の実施によって流域からの負荷は着実に削減されているが, 湖内水質は概ね横ばいで推移
- ・ 流域からの負荷量に占める自然系の割合が大きい

第3章 第7期湖沼水質保全計画の概要

1 水質の保全に関する方針

項目	内容
(1) 計画期間	・ 令和4年度から13年度までの10年間
(2) 計画期間内に達成すべき目標	・ 目標値の一覧
(3) 計画の目標及び対策と長期ビジョンをつなぐ道筋	・ 令和14年度までの達成を目指し, 負荷の削減や内部生産の影響などの課題を踏まえた取組の推進
(4) 中間評価の実施	・ 5年経過時点での計画見直し

2 水質の保全に資する事業

計画	内容
(1) 生活排水処理施設の整備	・ 下水道の接続率向上 ・ 単独処理浄化槽 → 高度処理型合併処理浄化槽
(2) 家畜排せつ物管理施設の活用	・ 家畜排せつ物の適正管理
(3) ダム貯水池の対策	・ ばっ気装置の運用による異臭味発生の抑制 ・ 貯砂ダムの適切な管理により流入栄養塩を低減

3 水質の保全のための規制その他の措置

計画	内容
(1) 工場・事業場排水対策	・ 水質汚濁防止法等関係法令に基づき排水基準の順守を徹底
(2) 生活排水対策	・ 下水道への接続の促進 ・ 浄化槽等の適正な設置及び維持管理の確保
(3) 畜産に係る負荷対策	・ 畜舎や家畜排せつ物の適正管理を継続
(4) 魚類養殖に係る負荷対策	・ 第6期の調査結果を踏まえた削減対策の検討
(5) 流出水対策	・ 農業地域対策: こだわり米, 側条施肥機 ・ 市街地対策: 小水路・道路側溝等の清掃等 ・ 自然地域対策: 森林の適正管理
(6) 緑地の保全その他湖畔の自然環境の保護	・ 湖畔及び流入河川等に存在する水質改善に資する植生帯の保全
(7) 廃棄物の適正処理	・ 廃棄物の不法投棄の防止

4 その他

計画	内容
(1) 地域住民等との協働による環境保全活動の推進	・ 環境保全活動, 環境学習の推進による環境保全意識の向上
(2) 公共用水域の水質の監視等	・ 水質汚濁防止法に基づく定期的な水質の監視及び測定の実施
(3) 調査研究等の推進	・ 森林からの負荷削減: 間伐等の森林整備 ・ 養魚場からの負荷削減: 溶存態の除去 ・ 内部生産のメカニズム解析
(4) 流域の関係計画等との整合	—
(5) 事業者・住民等に対する支援	—

5 計画の着実な推進

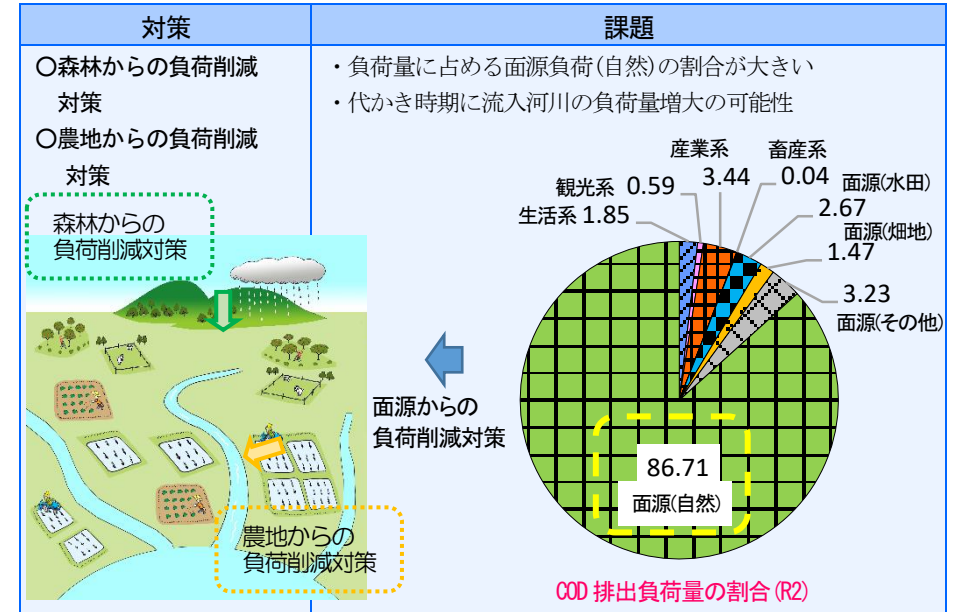
計画	内容
(1) 計画の推進体制	・ 湖沼水質保全対策推進協議会, 関係機関の連携
(2) 計画の進行管理	・ 県が毎年の実施状況を取りまとめ, 進行管理を実施

6 流出水対策推進計画

- ・ 第6期湖沼水質保全計画と同様に「前川上流域」を流出水対策地区として重点的な流出水対策を実施

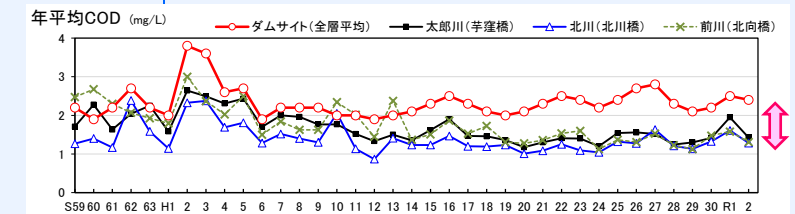
第4章 第7期湖沼水質保全計画の重点的な取り組み

1 面源負荷対策



2 湖内水質メカニズムの解明と対策の検討

対策	課題
○ 内部生産のメカニズム解析	・ 流域からの負荷は着実に削減されているが, 貯水池内水質は概ね横ばいで推移
○ 対策の検討	・ 流入河川よりも貯水池内の水質(COD)が高く, 貯水池内での植物プランクトン増殖の可能性



3 地域住民にわかりやすい補助指標による評価

対策	課題
○ 補助指標の設定	・ 湖沼の評価は環境基準を中心とした水質で行われてきた ・ 近年, 湖沼の課題が多様化(親水利用, 生態系等)しており, これら进行评估できる補助指標が必要

地域住民にわかりやすい補助指標を設定 ← 釜房ダムの特徴(水道水源, 親水利用等)が評価できない ← 従来の湖沼評価は水質(COD)で実施